

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

(第1面)



産業廃棄物処理計画書

令和5年6月20日

大分県知事 殿

提出者

住 所 大阪市港区三先1丁目11番18号

氏 名 奥村組土木興業株式会社

取締役社長 奥村安正

電話番号 06 (6572) 5301

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	奥村組土木興業株式会社
事業場の所在地	大阪市港区三先1丁目11番18号
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	(06) 総合工事業
②事業の規模	完成工事高 4,888,968万円
③従業員数	894人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	ケース1：廃棄物発生→保管→収集→最終処分 ケース2：廃棄物発生→保管→収集→中間処理→再生品 ケース3：廃棄物発生→保管→収集→中間処理→最終処分

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙一表2 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず
	排 出 量	2.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） ・ 材料ロス率の削減。 ・ 余剰材の引き取り。 ・ 工法改善による産業廃棄物削減。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず
	排 出 量	0.0 t	0.0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 上記の取り組みを維持する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ がれき類（コンクリート・アスファルト）、木くずは分別するとともに、他の産業廃棄物に混入しないように確実に分別、保管を実施。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 細やかな分別に努める。 ・ 現状の取り組みを維持し、産業廃棄物削減に努める。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

木くず	金属くず	コンクリート片	アスファルト片
1100.00 t	0.00 t	598.00 t	535.00 t

②計画

木くず	金属くず	コンクリート片	アスファルト片
800.0 t	0.0 t	400.0 t	400.0 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

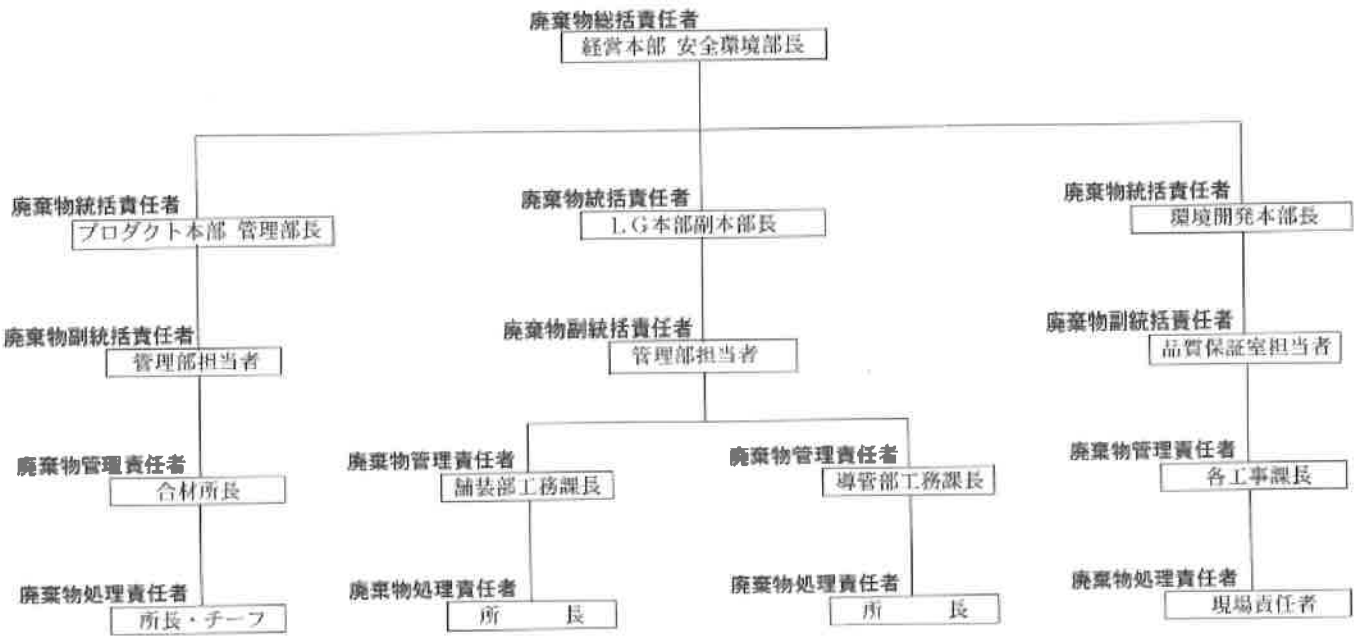
安定型建設系混合廃棄物	管理型建設系混合廃棄物	がれき類（下記以外）	建設汚泥
t	t	49.0 t	t

②計画

安定型建設系混合廃棄物	管理型建設系混合廃棄物	がれき類（下記以外）	建設汚泥
0.0 t	0.00 t	30.0 t	0.0 t

表 2

産業廃棄物管理組織表



自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	アスファルト破片	安定型建設系混合廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	アスファルト破片	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	アスファルト破片	安定型建設系混合廃棄物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	アスファルト破片		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t	t
	(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず ^a
	全処理委託量	2.00 t	0.00 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	2.00 t	0.00 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減を図った。 ・委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施している。 ・再資源化率の高い事業者を選定している。 		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

木くず	金属くず	コンクリート片	アスファルト片
1100.00 t	0.00 t	598.00 t	535.00 t
t	t	t	t
1100.00 t	0.00 t	598.00 t	535.00 t
t	t	t	t
t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

t	t	t	t

②計画

t	t	t	t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

安定型建設系混合廃棄物	管理型建設系混合廃棄物	がれき類（下記以外）	建設汚泥
0.00 t	0.00 t	49.0 t	0.0 t
t	t	t	t
0.00 t	0.00 t	49.0 t	0.0 t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず
	全 処 理 委 託 量	0.0 t	0.0 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0.0 t	0.0 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・優良認定処理業者を選定する。 ・委託先処理業者には定期的に実施確認を行う。 ・現状の取り組みを維持し、産業廃棄物抑制に努める。		
※事務処理欄			

②計画

木くず	金属くず	コンクリート片	アスファルト片
800.0 t	0.0 t	400.0 t	400.0 t
t	t	t	t
800.0 t	0.0 t	400.0 t	400.0 t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画

安定型建設系混合廃棄物	管理型建設系混合廃棄物	がれき類（下記以外）	建設汚泥
0.0 t	0.0 t	30.0 t	0.0 t
t	t	t	t
0.0 t	0.0 t	30.0 t	0.0 t
t	t	t	t
t	t	t	t

前 年 度 【 令 和 4 年 度 】 実 績

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況								
		①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した (t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)
コード	名 称									
コード 参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物 の種類ごとの量	①の量のうち、中間 処理をせず直接自ら 再生利用した量	①の量のうち、中間 処理をせず自ら埋立 処分又は海洋投入 処分した量	①の量のうち、自ら 中間処理した産業 廃棄物の当該中間 処理前の量	④の量のうち熱回収 を行った量	自ら中間処理を行っ た後の量	④の量から⑤の量 を差し引いた量	⑥の量のうち、自ら 利用し、又は他人に 売却した量	⑥の量のうち、自ら 埋立処分及び海洋 投入処分した量
1	0600 ①廃プラスチック									
2	0710 ②紙くず									
3	0810 ③木くず									
4	1200 ④金属くず									
5	1501 ⑤コンクリート破片	402								
6	1502 ⑥アスファルト破 片	10,638								
7	2010 ⑦安定型建設系 混合廃棄物	7								
8	2020 ⑧管理型建設系 混合廃棄物	125								
9	1500 ⑨がれき類(下記 以外)	791								
10	0221 ⑩建設汚泥	4,092								
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
合計		16,055								

今 年 度 【 令 和 5 年 度 】 目 標

[illegible]

報 告 書 の 〔 別 紙 〕

提 出 者						
住 所	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を総括的に管理する支店等の名称	報告担当部署の名称	報告担当者の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス
大阪市港区三先1丁目11番18号	奥村組土木興業株式会社	安全環境部	奥村 安勝	06(6572)5261	06(6575)0752	yaakutsu.o@okumura-dbi.co.jp

⑩直接及び自ら自己処理した後の処理委託量 (t)	(⑩= ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭)						⑫+⑬	⑭+⑮
	委 託 先 に よ る 区 分						⑫優良認定処理業者への処理委託量(t)	⑭自ら再生利用を行った量(t)
	①再生利用業者への処理委託量(t)	②熱回収認定業者への処理委託量(t)	③熱回収認定業者以外の熱回収業者への処理委託量(t)	④その他の中間処理委託量(t)	⑤埋立処分委託量(t)	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		⑮自ら埋立処分又は海没投入処分を行った量(t)
⑩の量のうち、処理業者への再生利用委託量(①、②を除く)	⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者である処理業者への焼却処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者である処理業者への焼却処理委託量	⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量	⑩の量のうち、委託して破砕等の中間処理した量(③～④を除く)	⑩の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量	⑩の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量	⑫の量と⑬の量を合計したもの(自動計算)	⑮の量と⑭の量を合計したもの(自動計算)
2.00	2.00							
1,100.00	1,100.00							
598.00	598.00							
535.00	535.00							
49.00	49.00							
2,284.00	2,284.00							

(注1)トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。
(注2)上記の産業廃棄物の種類以外の排出実績があった場合は、必要に応じ、直接追加入力するとともに、第2面も追加してください。

産 業 廃 棄 物 処 理 計 画 実 施 状 況

産業廃棄物の種類		計 画 の 実 施 状 況								
コード	名 称	①排出量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自己直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した量 (t)	⑤ ④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残存量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)
コード 参照	産業廃棄物の種類	発生した産業廃棄物の 種類ごとの量	①の量のうち、中間 処理をせず直接自ら 再生利用した量	①の量のうち、中間処 理をせず自ら埋立処分 又は海洋投入処分した 量	①の量のうち、自ら中 間処理した産業廃棄物 の当該中間処理前の 量	④の量のうち熱 回収を行った量	自ら中間処理を 行った後の量	④の量から⑤の 量を差し引いた 量	⑥の量のうち、自 ら利用し、又は他 人に売却した量	⑨の量のうち、自ら 立処分及び海洋投 入処分した量
1 0600	①廃プラスチック	2.00								
2 0710	②紙くず									
3 0810	③木くず	1,100.00								
4 1200	④金属くず									
5 1501	⑤コンクリート破片	598.00								
6 1502	⑥アスファルト破片	535.00								
7 2010	⑦安定型建設系混合 廃棄物									
8 2020	⑧管理型建設系混合 廃棄物									
9 1500	⑨がれき類(下記以 外)	49.00								
10 0221	⑩建設汚泥									
11	⑪									
12	⑫									
13	⑬									
14	⑭									
15	⑮									
16	⑯									
17	⑰									
18	⑱									
19	⑲									
20	⑳									
合計		2,284.00								